フィジーにおけるバスケットボールの伝播と受容に関する研究

坂口麻衣（筑波大学大学院）

１．はじめに

世界各地に近代スポーツという文化が伝播され、いまやスポーツは社会開発のツールとしても大きく注目されている。

フィジーの首都スヴァにあるレワンガは、治安が悪い地域であったが、バスケットボールがそのイメージを「ガラの悪い地域」から「バスケットボールのホーム」へと変えたものとして語られている。

本研究では、フィジーにおけるバスケットボールの歴史を明らかにし、レワンガのバスケットボールがそこでプレーする彼ら彼女らにとって、何を意味するのかについて考える。

２．先行研究の検討

スポーツは、伝播された地域の身体文化と混ざり合いながら、それぞれの場所で特有の変化を遂げてきた。この伝播の過程は、グローバリゼーションとして先進国から途上国に一方的に伝わるのだと考えるには、近年の状況は複雑になりすぎている。

このような複雑化した状況にも関わらず、スポーツとグローバリゼーションの関係においては、途上国の実証的研究を経由しないまま、包括的な理論で進められることが多かった。（小林、2001）

また、近年スポーツは開発のツールとしても注目されるようになっており、スポーツは開発において有効であるという研究はすでに多く蓄積されている。一方で、スポーツが社会的な目標達成に有効であると言って終わらせてしまうのは不十分であり、そこから社会的な問題や、その問題が生まれる背景に立ち返って検討する必要があることも指摘されている。（ホルムズ、2015：164）

３．研究方法

参与観察は６ヶ月間に渡り、フィジーバスケットボール協会におけるインターンシップ、選手・審判として大会へ参加したことを通じて行った。

さらに新聞記事（Fiji Sun、Fiji Times）など資料分析と、フィジーのバスケットボールに関わってきた人びとに対する半構造化インタビューを行った。

４．結果と考察

フィジーにおいてバスケットボールは中国人によってプレーされ、1958 年にフィジー人たちに紹介されたのが起源である。(Fiji Times 2017/08/19)

また、今回の対象のエリアであるレワンガには 1975 年、アメリカから来たピースコープのボランティアによってエッズコートが設置された。当時、犯罪が多い地域であったレワンガの犯罪を減らすことが目的であった。(インタビュー 2017/04/29)

エッズコートでバスケットボールをプレーするなかで、彼らはいい行いを身につけ、コミュニティのロールモデルとなっていく。そういった価値を、バスケットボールを通じて共有することがコミュニティをよくしていくことにつながると考えられている様子が見られた。（フィールドノート 2016/07/20）

５．結論

レワンガ（フィジー）におけるバスケットボールは「悪いレワンガ」と言われてきたイメージの負の再生産を断ち切る手段であった。選手としてレワンガのチームでプレーすることは、家族や地域を代表するという「誇り」＝新しい価値観となっている。

開発におけるスポーツにおいて、この事例から考えられるのは、スポーツがある目的に対する「手段」としてどのように使えるかだけでなく、彼らの様々な文化のどの部分と節合するのかを考える視点の大切さである。

５．参考文献

1) ホルムズ・マシュー, 竹崎一真訳, 「開発のためのスポーツ、そのグローバルな展開-グローバルサウス中心の IDS/SfD アジェンダに向けて」『現代スポーツ評論』33:152-165, 創文企画, 2015.

2) 小林勉, 「途上国に押し寄せるスポーツのグローバリゼーションの実相-メラネシア地域の事例から」『スポーツ社会学研究』9:83-93, 創文企画, 2001.